

～営業列車での車内消毒～ 営業列車ではなくても消毒はできるはず！ 消毒する目的を履き違えていませんか？

6月1日より、首都圏管内のある路線では新型コロナウイルス感染症対策として、現場社員が営業列車の車内に立ち入り、つり革や手すりの消毒を行う取り組みが始まりました。①新型コロナウイルスに対する感染リスクが十分に払拭されていない中でのこの取り組みは自らの感染リスクを高めること、②感染者が発生した時の責任の所在が明らかにされていないこと、③感染者が発生した場合に自宅待機者が発生し、列車運行に必要な要員を確保できなくなること、④東京支社危機管理本部指示とは逆行した内容であり、安全配慮義務違反であることは既にお伝えしました。必ずしも営業列車の車内に立ち入ってまで消毒をするべきものなのでしょうか？

首都圏の他の路線では車両を車庫に入区させた後に消毒を行っている例があります。

首都圏他路線の消毒方法（例）

- ・ 昼間に入区する車両を対象に、客室内及び運転台の消毒・除菌を行っている。
- ・ 全編成対象ではないものの、1日あたり10編成以上の消毒が可能。
- ・ 営業列車ではないため、現場社員の感染リスクは幾分軽減可能。

消毒はリスク軽減に若干の効果はありますが、生命や健康のリスクを冒してまで行うことではありません。

また、組合員から寄せられた情報によると、客室内の消毒にあたり、当該社員が手袋を着用せずに消毒を行っていることが明らかになりました。消毒している様子を目撃した社員からは以下のような声があがっています。

消毒している様子を目撃した社員からの声

- ・ 大勢乗ってきて異様な雰囲気だった。
- ・ 私たちが感染したらどうするの？
- ・ 車内が一瞬で密になった。
- ・ リスクが高すぎる。
- ・ アピールでしかない。

社員から「アピールでしかない」という声が挙がっていますが、職場ではこのようなやり取りがありました。営業列車での消毒作業について組合員が現場長に問い合わせに行くと…

組合員：車内の消毒に関する取り組みは世間に対するアピールでしかないのでは？

現場長：半分アピールでもある。

感染拡大防止ではなく、アピールを目的として現場社員に営業列車の車内消毒をさせることは言語道断であり、軽率な行動と言えます。コロナ禍の最前線でたたかい、犠牲となった方々のことを想えばこのような言動・行動はできないはずです！

**現場社員の「生命」と「健康」を無視した方法での車内消毒は即刻中止を！
現場社員の安全を担保できる方法での運用を求めます！**

